

2025年度 第3四半期 決算説明会 質疑応答（要旨）

Q1) 国際旅客事業について、第3四半期の動向と第4四半期の見通しを教えてください。

- A1) ・ 第3四半期の国際旅客は、訪日需要を中心に取り込み、全方面で旅客数が増加しました。イールドについて、燃油市況の影響を除いた実質イールドはわずかに前年を上回りました。
- ・ 足元では、燃油サーチャージの低下に伴うイールドへの影響はあるものの、全体的に堅調な需要が続く見通しです。
 - ・ 第4四半期の中国線の予約状況は、第3四半期と比べてやや軟調に推移するとみています。中国政府による渡航自粛呼びかけの影響は現時点で軽微にとどまっていますが、今後の動向については引き続き注視していきます。

Q2) 業績予想における「営業利益 2,000 億円」の目標達成確度について、現在どのように考えていますか。

- A2) ・ 第4四半期は、貨物事業における春節の影響や国際旅客事業における中国線の需要動向、また円安進行に伴う外貨建て費用の増加などを注視する必要があるため、現時点では業績予想を据え置いています。
- ・ 但し、足元の需要動向は現時点では堅調に推移しており、確実な目標達成に向けて引き続き努めてまいります。

Q3) 来年度の利益変動要素について教えてください。

- A3) ・ 来期の計画は現在精査中ですが、増益を目指し調整を進めています。
- ・ 訪日需要や日本発業務渡航を中心とした国際旅客需要の伸長に加え、AI・電子部品関連の貨物需要の取り込みが増収を牽引する見込みです。また、NCAの連結化に伴うネットワーク拡大効果も、増収に寄与するとみています。
 - ・ 国内線においては、運賃体系の変更によって収益性の改善を図るとともに、潜在需要を確実に獲得し、利用率と単価のバランス最適化を図ります。
 - ・ 一方、費用面については、公租公課の減免措置縮小やインフレ進行、ならびに整備機会の増加に伴って、今期と比べて一定程度の費用増加を想定しています。

以上